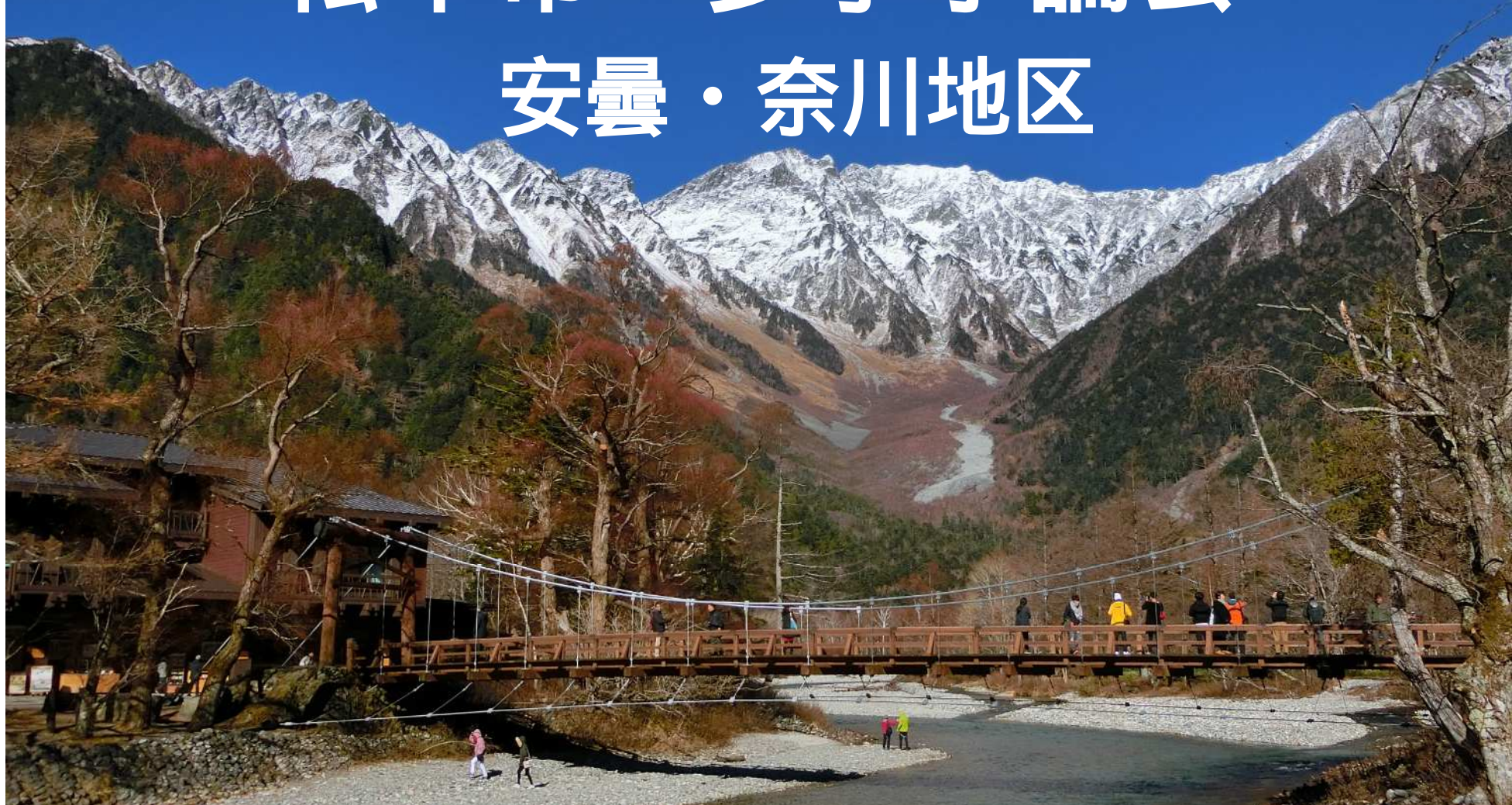


松本市 多事争論会

安曇・奈川地区



アルプスリゾートの整備





Matsumoto City

マニユフェスト2020 「静から動へ 松本を前へ」

観光・環境・文化のポテンシャルを先端技術と結び付け、松本の稼ぐ力を底上げします。

「世界に冠たる山岳観光リゾートを目指し、松本平と北アルプスを結ぶ観光インフラや美ヶ原を通年で楽しめる交通アクセスを整備します。」



山岳地域に対する国の施策

特に、上高地・乗鞍での環境省の施策としては、

「上高地ビジョン2014」

上高地関係者による協働型の管理体制の構築と、それによる世界最高水準の山岳公園づくりを目指し策定

「国立公園満喫プロジェクト」

国立公園を世界水準のナショナルパークとしてブランド化を図るため、訪日外国人を惹きつける取組みを計画的・集中的に実施し、利用者数増を目指す

「乗鞍高原再整備基本計画」

一の瀬園地の活用と乗鞍高原の活性化に向けた計画の作成



○ 目 的

「国立公園」を、世界水準の「ナショナルパークゲート」へ

全国の国立公園を訪れる外国人を 500万人 → 1000万人(2020年)

○ 募 集

先行して取り組む公園を選定

応募により8公園を選定

→ 阿寒摩周、十和田八幡平、日光、伊勢志摩、大山隠岐、

阿蘇くじゅう、霧島錦江湾、慶良間諸島

中部山岳国立公園は、この後募集した上記に準ずる3公園

→ 支笏洞爺、富士箱根伊豆、中部山岳国立公園



これからの国立公園満喫プロジェクト

○目 的

11公園の内、これまでの実績を伸ばし、さらに高みを目指す公園及び周辺地域で集中的な取り組みを実施し、外国人から訪問先として選考される「国際水準のデスティネーションとなる日本の国立公園」のモデルを作る。

ウィズコロナ・ポストコロナの時代への対応、全34公園の底上げなど

○選 定

現在の11公園の中から

松本市のリゾート整備のためには、満喫プロジェクトが有効な手段



上高地梓川の河床上昇問題

○河床上昇問題とは

上高地ビジョン2014から要約

上高地の成立

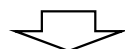
「北アルプスの隆起と激しい浸食作用で形成」

- ・ 現在は隆起と堆積がほぼ均衡
- ・ 浸食、堆積が継続中

=

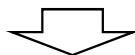
「自然景観と生物多様性の基盤」

- ・ 本来の自然河川的作用が残る極めて貴重な地域
- ・ 河川のかく乱作用を必要とするケシヨウヤナギなどの希少な植物が存在
- ・ いくつもの自然条件が重なった巧妙なバランスで、貴重な生態系が成立



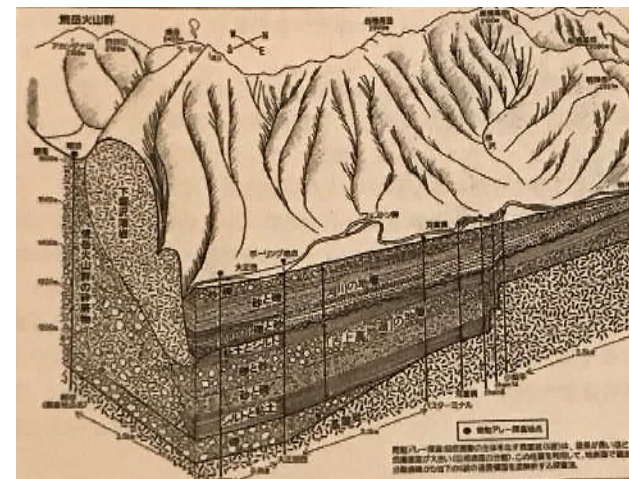
長年の課題「河床上昇問題」

- ・ 増水時における浸水被害の懸念が、近年の気候変動のため、特に高まりつつある
- ・ 掻き上げた土砂が景観を損ねている。



「自然の仕組みと人の営みが調和した対策が必要」

V字谷を土砂が300m以上埋めている。



上高地谷を埋める礫層の断面(「上高地の自然誌」P11)



Matsumoto City

複数の国県機関が関係する上高地

1 文化財指定範囲

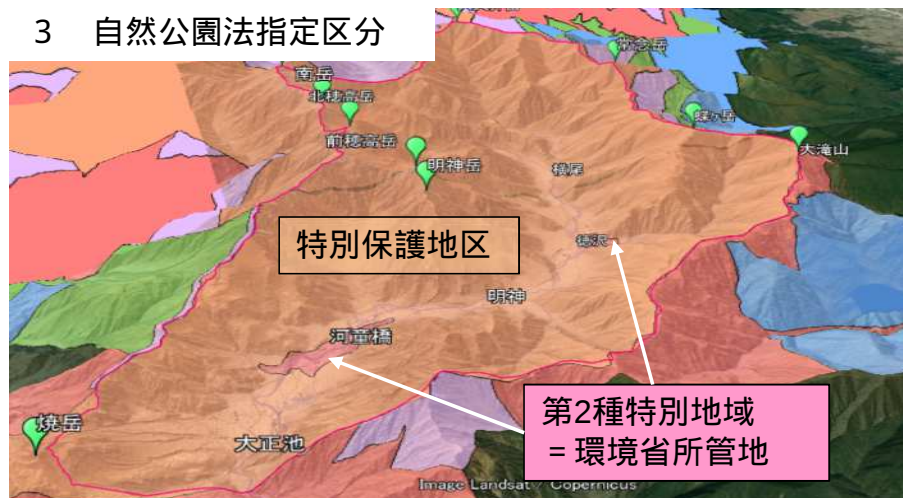
特別名勝、特別天然記念物の二重指定は上高地と黒部渓谷2カ所のみ



2 土地所有者 = 文化財の管理者



3 自然公園法指定区分



4 砂防指定地・一級河川





Matsumoto City

上高地ビジョン2014での方針

【基本的視点】

- ・自然の仕組みと人の営みの調和に留意
- ・自然景観や生物多様性の保全に十分配慮
- ・必要最小限のハード対策と被害を最小限に抑える減災の考え方を基本としたソフト対策を充実させる。

取組の方向性

ア 河床上昇の定量的な把握、効果的な対策の検討・実施

イ 当面の対策として、上高地集団施設地区や明神・徳沢・横尾地区の施設周辺での堆積土砂の除去や護岸の補強・かさ上げ

ウ 旅館の建て替えなど施設の再整備における地盤上げ

エ 大正池での土砂の円滑な流下方法や効果的な堆積土砂の除去方法の検討

行動計画（おおむね5年以内）

ア 国交省、林野庁、長野県が協働し、土砂移動メカニズムを解明、効果的な対策の検討

イ 大正池で堆積土砂の除去を行います。

ウ 上高地集団施設地区での堆積土砂の除去

エ 上高地集団施設地区の護岸の補強・かさ上げ

オ 大正池の土砂の円滑な流下方法や効果的な堆積土砂の除去方法の検討

カ 旅館の建て替えや橋梁・歩道などの利用施設の再整備の際の地盤上げを必要に応じて実施

- ・策定：中部山岳国立公園 上高地連絡協議会（国県市、地元関係団体で構成）
- ・座長：亀山章（東京農工大学大学院名誉教授）
- ・事務局：環境省





Matsumoto City

対策の実施状況と近年の浸水被害

H26年度以降、松本砂防事務所が土砂のモニタリング調査を実施



現状、上流域（明神、徳沢、横尾）の土砂の搬出が急務

- ・ 抜本的な対策立案に向け、関係機関が協議・調整中
- ・ まずは上流域の土砂搬出が必要 → 河川管理者である長野県に市から要望